

事情聴取調査

- 1 件名 板橋区立ホテル生環境館について
- 2 被聴取者 資源環境部環境課(管理係)  
阿部 宣男(技能主任・作業Ⅱ)
- 3 聴取者 総務部参事 藤田 雅史  
総務部人事課長 木曾 博
- 4 聴取日時 平成26年2月13日(木) 14時33分～16時22分
- 5 聴取場所 人事課面談室
- 6 聴取内容要旨

【木曾課長】 本日のやり取りは録音をさせていただき、お互いに齟齬がないように、テープ起こしをした書面を後日確認していただきたい。

【阿部主事】 わかりました。

【木曾課長】 2月3日に退職願をいただいているが、今はお預かりさせていただいている。すでに担当から話したとおり10日前までにいただかなければならない点と、何点か所管から報告があがっており解決しなければならないことがあるため確認をさせていただきたい。

まず、所管で行った生態調査について報告を受けているが、生息数の把握は普段どのようにされていたのか。

【阿部主事】 通常ホタルが羽化をして成虫になる。その成虫になった時に、オスとメスの数をしっかりと数える。その段階でランダムで5ペアを産卵させる。滅菌ガーゼの上に卵を産ませて、全部産んで成虫もなくなった時に、全ての卵を顕微鏡もしくはルーペを使って、1つづつ数える。

1のペアは800個だった。2のペアは600個だったという感じで5つ数えて、全てを足して5で割る。そうするとだいたい平均が出る。その平均が例えば700個として、メスの数が1,000匹だとすると、おおよそ70万の卵だということになる。メスを採取しプラスチックの箱を20個くらい用意し、産卵したかどうか確認をする。オープンスペースの飼育室の所で、見学者からも見える状態にしていた。

それから約1か月後に孵化をする。最初は産卵で卵から幼虫にかえる。その孵化数を数える。そのうち95%の孵化率だとすれば、70万から5%減すれば良い。

その後、水質を合わせた状態で、せせらぎへそつと移していく。だいたい、これが7月から8月の作業。7月がゲンジボタル、8月から9月がヘイケボタル。11月の時点で10万匹と報告させていただいたのは、だいたい1か月毎に半減するので、9月に40万匹、10月に20万匹、11月に10万匹となる。これは当然ながら、生態の異常ではなくて、弱肉強食の部分があり、その中で生態を維持している。

11月の時点では、ゲンジ・ヘイケあわせて約10万匹いる。この細かい内訳は、ゲンジであれば2～3齢幼虫、5～8mm程度。ヘイケボタルであれば、同じく2～3齢幼虫、4～6mm程度という報告をする。

【木曾課長】 委託業者もいるが、生息数の調査は阿部さんの役割なのか。

【阿部主事】 そうです。委託業者といえども第三者になるので、あるそれと教えることはできない。そのため自分がやらせていただいていた。

【木曾課長】 調査はいつやるという決まりはあるのか。

【阿部主事】 ある。新月と満月の時、大潮と満ち潮の時が一番活発なので、それを見計らって月齢を見ながら行う。

【木曾課長】 1年に何回位行うのか。

【阿部主事】 生態調査は、水の中に入る訳にはいけないので、小さなステンレスバットに特殊なエサを入れてはかる。網でがばと取るようなことは、危険を伴うのでやらない。

【木曾課長】 調査した結果の内容は主管課へ報告しているのか。

【阿部主事】 そういった命令はない。ただ、日々の業務日誌の中で、内せせらぎの中の生息調査などあるので、これは何を見たのかと問合せがあった時は、おおよそ何が何匹いるという報告をさせてもらっている。

【木曾課長】 そうすると業務日誌の中で、記録があるということか。

【阿部主事】 業務日誌は匹数ではなく、そういった作業をしたということを記録している。

【木曾課長】 昨年11月に10月現在の飼育生物一覧という本課へ提出されている物をこちらもいただいているが、ゲンジ・ヘイケあわせて100万匹と報告があるが。

【阿部主事】 これは最初の孵化の段階。

【木曾課長】 そうするとこの10月の段階では10万匹程度という認識でよろしいか。

【阿部主事】 そうです。最初に水槽で孵化した時が83万匹で、その報告書を出したのが10月の日付になっている。

【木曾課長】 これは本課から阿部さんへ依頼があったのか。

【阿部主事】 そうです。

【木曾課長】 今この説明を聞いて私は10万匹と認識することができたが、こういった説明はされていたのか。

【阿部主事】 そういったことを聞かれたこともなかった。11月におおよそどれくらいかと電話で問合せがあったので、その際は10万匹程度だと思つと答えている。

【木曾課長】 そうするとこれは最盛期の数字ということか。

【阿部主事】 そうです。7、8、9月の合算の幼虫数になる。

【木曾課長】 この説明は本課にされていたのか。

【阿部主事】 三浦係長と担当の飯田主事には事細かに説明をしていると思う。

【木曾課長】 1月27日の委託による生態調査結果では、ゲンジボタルが推定23匹、ヘイケボタルが推定0匹、カワナが推定963匹となっている。この結果についてどのように感じているか。

【阿部主事】 全くこの業者の方式が生態調査に当てはまらない。これはマクロベントス方式と言って、海の護岸やサンゴなどを取るための方式。どんな学者に聞いてもこれは間違いだと言う。

ホタルが今、休眠状態でありながら、そこに人が土足で入ると業者の行為が許せない。ここは神型などなので、一足踏めばたぶんその25cmの範囲にいた幼虫達、100なり200なり300なりが、潰されるか流されてしまう。そのため自分は部長にやめてくれとお願いしたが、強引に調査を実施した。人間としてあるまじき行為だと思う。

また、この委託業者は昨年10月に自分のところにホテルの育て方を教えてくれと来た業者で、その時に自分は12月、1月、2月は絶対に手を触れてはダメだと話した。水質だけを管理して、夜ホテルが活動しているかどうかに関しては、しっかりとホテルの明かりを見ればいいと説明した。

【木曾課長】 例えば、今の阿部さんの管理の方法はどのようなかたちなのか。

【阿部主事】 夜、ホテルの幼虫がいるかどうかは、せせらぎの水辺の底をずっと見て、そこに明かりがあるかどうかを見つける。幼虫は両端が光る。大きさは今5～8mm。終齢幼虫が2匹も見つかった。本来この時期に終齢幼虫が見つかることが珍しい。もし今、終齢幼虫がごろごろ見つかったら、あがる寸前なのでホテルの公開などでできない。

【木曾課長】 本課は国土交通省のマニュアルに沿って調査したと言っているが、

【阿部主事】 これは間違い。国交省のマニュアルは、一般河川など大型の河川や護岸などの調査に使用する物でホタルには適用できない。これはどの学者も同じことを言うと思う。これは生態を崩してしまうため危険である。今のホタルの幼虫は小さい。たまたま、一部始終をビデオで撮ってある。環境課長は業者に1cm以上のものを探せと指示している。

【木曾課長】 阿部さんは現状何匹位と想定されているか。

【阿部主事】 小さいのをいれて、1万匹程度ではないか。5mmとか8mmとかの小さいのを無視して流している。これは根拠がある。委託業者が行った調査には根拠がない。

まず、土足で川に入るという行為が違反。ホタルのいるデリケートなところに土足で人が入ってさらうことは、網を入れた瞬間に幼虫は浮いて流れてしまう。循環ピットという網に8回溢れた。ホコリやチリと一緒に小さな幼虫達がこびりついて、目詰まりをおこした。これは映像にもある。

【木曾課長】 阿部さんが推定する1万匹がいるとすれば、7、8月の時期には何匹くらいになっていると想定されるのか。

【阿部主事】 今の業者に任せたら1か月で全滅する。

【木曾課長】 今、1万匹の幼虫が7、8月になぜ100万匹になるのか教えてもらいたい。

【阿部主事】 黒板があると説明しやすい。飛んだホタルが卵を産んだのが80万。

(黒板使用)

ホタルの成虫が例えば100匹いた。平均の卵数が700だとすると700と100で7万個の卵になる。6月：ゲンジは平均でメス1匹700～800個の卵を持っている。ヘイケは80個前後。

7月：孵化。8月・9月・10月とだんだん減って行く。脱皮することに減って行く。ゲンジは6回脱皮し、その都度減って行く。7万匹がいたのが、6回脱皮すると数千匹程度になっている。翌年に繰り返して行く。最終的に7万匹が1,000匹程度になっている。

【木曾課長】 1万匹というのがなぜ100万匹になるのか。

【阿部主事】 それは絶対数が多かったから。

【木曾課長】 今、1万匹いると思われるものは、夏になると何匹程度になると思われるか。

【阿部主事】 半分位なので、5,000匹位はゲンジとヘイケで飛ぶのではないかと自分は思っている。ただ、業者は足立の生態圏で失敗した会社で、教えてくれと板橋に来ている。そこがなぜやるのと思う。

【木曾課長】 去年はなぜ100万匹いたのか。

【阿部主事】 これは卵です。

【木曾課長】 幼虫と書いてあるが。

【阿部主事】 孵化幼虫の話です。最終的には2万匹程度だった。流されてしまったので、5,000になった。

【藤田参事】 まだ、流されていないものが残っているのか。

【阿部主事】 この間、環境課の飯田主事に教えたが、翌日20～30匹見つかった。その方法は今度来た業者に教える訳にはいかない。特許の部分もあるので。

【藤田参事】 それはいつ頃か。

【阿部主事】 10日くらい前。そこに入れるエサはカワニナではなく人道的に作った企業秘密のエサを入れている。

【藤田参事】 それは飯田主事が確認をしているのか。

【阿部主事】 確認している。自分は18匹までは確認したが、用事があって途中で外したが、飯田主事は30～40ではないかと話していた。それを井上課長に言うと自分が入れたのではないかとと言われる。自分は施設には入れないし、それは悪意があるのではないかと伝えた。

第三者の職員が行っても取れた訳なので。

【藤田参事】 この業者の方法は考えられない。

【阿部主事】 考えられない。業者について調べたが、水生昆虫の方はいない。社長が海洋生物の専門家であるけども、学位も論文もない。これが学術に通るのか。私のやり方とは180℃違う。28年間ホタルをやってきた自分と、ホタルを知らない業者のどちらを信じるのか。役所は業者を信じるかもしれないが世間的に見ても信じられない。

【木曾課長】 施設でクロマルハナバチを飼っている。効果的にホタルを孵化させるための範囲では、区も認めていたところではあるが、今現在ハチはどのくらいいるのか。

【阿部主事】 今、ハチはいない。全部引き上げていただいた。ハチは玉川大学などから、持ち寄ってきたもので、器材なども区で買ったものではなく、全てみなさんが持ち寄ったものなので、先週までに全て引き上げた。これは外来生物法でも非常に問題があるのだが、ホタルがここまでできたのはハチのおかげ。ろ材なども800万くらいいたので貢献度は高い。

【木曾課長】 資料なども提供を受けているので、確認をさせていただきたい。ホタル施設とイノリー企画の業務提携契約書があるが、これは何のための契約書なのか。  
(資料を阿部主事へ提示)

【阿部主事】 これは能登町がマルハナバチを飼育繁殖し、全国の農家にハチを提供、販売する。イノリー企画の名前を考えたのも役所が個人でやっているとおかしいので、何か企画名を作ってくれないかということを役所側からお願いされた。

【木曾課長】 能登町から個人ではなく、法人でお願いされたのか。

【阿部主事】 個人ではまずいと言われてもお手伝いだから、イノリー企画さんがいいのではないかという感じで。

【木曾課長】 イノリー企画と阿部さんはどのような関係なのか。

【阿部主事】 全く師弟関係はない。

【木曾課長】 この契約書を見ると阿部主事の私印が押してあるが、あたかも板橋区のホタル施設が公的な任務として契約しているような感じだが、これはあくまで私人間の話ではないのか。

【阿部主事】 そのように捉われても仕方がない部分があると思うが、これで利益をあげていることはなく、とりあえず業務提携があるということを能登町が欲しいとのことだったので作った。

【木曾課長】 イノリー企画と阿部さんは関係があるのか。

【阿部主事】 何も無い。ハチのお手伝いをしてくれているのがイノリー企画。何ら問題ないだろうということだった。

【木曾課長】 能登町とイノリー企画との売買契約書の件はどうか。

【阿部主事】 これは飼育代を能登町から出してもらうことになっているもの。

【木曾課長】 ただ、丙のところで、環境館館長として阿部さんの名前があり私印が押され、三者で結んでいるかたちになっているが。

【阿部主事】 これは個体が適正かどうか確認するため、板橋で作ったマルハナバチに能登町が飼育代を払うにあたって、良い個体だと見るために丙がいたということになっている。

【木曾課長】 それは業務なのか。

【阿部主事】 業務ではない。

【木曾課長】 区の業務なのか。

【阿部主事】 区の業務ではない。しかし自分は区長にこれを業務にして欲しいとお願した。夜間公開の後だったので、このことを区長が覚えているかどうかは分からない。

【木曾課長】 こういったことは区長ではなくて、基本的に直属の上司の許可を取るという話ではないか。

【阿部主事】平成23年の時はエコポリスセンターだったと思うが、こういったかたちをやらせてもらうということは話した。

【木曾課長】それは誰にしたのか。

【阿部主事】当時の所長。桑子さんですかね。

【木曾課長】阿部さんから桑子所長に話をした。

【阿部主事】桑子所長か佐藤所長ですね。

【木曾課長】許可をもらっているのか。

【阿部主事】はい、こういったかたちにしたい。

【木曾課長】この契約書を見せて確認をしているか。

【阿部主事】見せて確認したかどうかは記憶にない。決してこれがおかしいことだと自分は思わない。これで板橋区や自分がお金をもらっていた訳ではないので。

【木曾課長】丙のところで、板橋区ホテル生環境館館長として公人の名前を使っているが、私印が押されている。

【阿部主事】この部分は、阿部個人としてはダメなのか能登町に話をしたが、向こうは町長も理事長も「うちも公僕だから、このようにしてくれないか」と打診はあった。

【木曾課長】契約は本来であれば館の名前を語っている以上、公の行為となる訳だが、その認識はしていたか。

【阿部主事】認識はしていた。

【木曾課長】施設の使用許可についても、ここが代表になるということ、当時の上司に話をしているか。

【阿部主事】環境課に移った時に、それは別にいいんじゃないのという話だった。

【木曾課長】それはどなたか。

【阿部主事】矢嶋課長。別にハチを増やしてホテルの飼育に使う、ハチの飼育費は板橋区に予算がない訳だから、その分を能登町が賄ってくれるのであればいいんじゃないですかという話だった。

【藤田参事】売買契約書及び秘密保守契約書の第2条で「甲・イノリー企画は乙・能登町に対し、甲関連施設(丙内・ホテル生環境館)で交尾確認済み休眠処理済み純国産クロマルハナバチ女王蜂を販売提供することを約束する。」と書いてあるが、

【阿部主事】イノリー企画のこの部分に関しては、私は区の施設では販売はダメよということで、ハチをやっていた方々は別の部屋で飼育をしていた。

【藤田参事】それはどこでやっていたのか。

【阿部主事】成増です。

【藤田参事】ホテル生環境館ではない。

【阿部主事】環境館ではないです。

【藤田参事】この契約書を見る限り、そのようには見えないのだが。

【阿部主事】丙内というのは、持ってきたハチが良いか悪いかを自分が見極めないとけなかつたので、その部分のことだと思う。

【藤田参事】それを館でやったのか。

【阿部主事】そうです。

【藤田参事】この条文はどうしてもひっかかる。実際は成増ということだが、ここには成増とは一言も書いていないので、公務員が販売に関わっていたように見えてしまう。

【阿部主事】本当だったら透う場所で行っていると書けば良かったですね。

【木曾課長】成増は何の施設なのか。

【阿部主事】成増は不動産屋から八百屋が引越した空き倉庫・店舗があった。そこにクロマルハナバチを2011年の時に、イノリー企画が持って行った。ただし、板橋のホテルの方もハ

チがいなくてホテル飼育ができないので、飼育に使う分はある程度は置いていた。ただし、震災が起きて、能登町に補助金がおきなくなって、この年で終わってしまう。

【藤田参事】阿部さんが能登町へ自分個人とできないかと話した時に、相手も公な機関だから個人とはできないと言われた話だが。

【阿部主事】能登町の言い分は、たぶん区長のところへ2回程お願いに来ている。板橋区として協力してくれないか、飼育費は能登町が払うからということで2回程来ている。だからこのような内容になっていると思う。これを作ったのは能登町が作った。

【藤田参事】そうであれば当然これは区の公印でないと、相手が公の機関でないと心配と言いがら、阿部さんの私印でよく納得したと思うのだが。

【阿部主事】これでいいですよということだったので。

【木曾課長】能登町は板橋区が公認していると認識しているのか。

【阿部主事】町長が区長にお願いして許可をもらったという認識。公文書も出して。

【木曾課長】阿部さんはそれに対してどのような認識なのか。

【阿部主事】私も区長から聞いた。区長がホテルでできることがあれば何なりとやりますよと回答している。向こうとしては認められたと認識している。

【木曾課長】能登町とはどのような経緯で、このような契約に至ったのか教えてもらいたい。

【阿部主事】能登町は過疎が非常に厳しく、その対策の一つとして、平成21年に廃校を利用してできる物はないかと考えた時に、ハチの飼育となった。

【木曾課長】それはどなたが考えたのか。

【阿部主事】ナカさんという課長さんがいた。係長さんが、能登町の方が。

【木曾課長】能登町の方と阿部さんはどのような繋がりがあったのか。

【阿部主事】不思議なのだが、たまたま、今まで来ていた綾部さんというハチの研究ではエキスパートの方がいるんですよ。ハチを計画的に増やせるといふ。その方の情報を掴んで、その技術を導入できないかということで、板橋に話がきた。

【木曾課長】それは向こうからきたのか。

【阿部主事】向こうからきた。ハチをやるのも2年はかかる。職員を派遣したり、研修をやるにしても。

【木曾課長】それは綾部さんを頼りにきた話なのか。

【阿部主事】そうです。それは自分のブログでも在来種マルハナバチはホテルと一緒に育つことができると紹介していた。能登町は年間約10万箱の受粉昆虫、西洋オオマルハナバチが輸入をされている。このままでは日本の自然が崩れてしまうので、在来種の受粉昆虫を自前で作りたいというのが能登町だった。

【木曾課長】綾部さん繋がり阿部さんに話がきたということか。

【阿部主事】そうです。板橋にきた訳なので、それで能登町は職員2名を1年づつ研修に寄こした。

【木曾課長】その研修の場所はどこか。

【阿部主事】当時、武蔵野種苗園というところが朝霞市でやっていたので、主にそこで研修をしていた。土などについては、週に1回程度ホテル生環境館に来て勉強会をしていた。

【木曾課長】それも当時の上司に断りを入れているのか。

【阿部主事】依頼文が区長宛てにきていた。職員2名が派遣で来るというものがきていた。それは主管課の方が持って行ったと思う。

【木曾課長】ゆうパックでクロマルハナバチがイノリー企画から出荷されており、その住所が生環境館の住所になっているが、

(資料を阿部主事へ提示)

【阿部主事】これはビジネスではない。生態がどうなっていたか、どうして亡くなったのかなどを確認するやり取りです。伝票に死亡個体など記載がある。お金は能登町が全部払っている。住

所は生態館になっているのは、私がいるからであり、何らおかしいことはない。異性化罐の記載もあるが、ハチのエサになるものです。

【木曾課長】 エサなども能登町から送られて来ていたのか。

【阿部主事】 これは役所が買うのではなく、ボランティアの皆さんがお金を出し合って買っていた。

【木曾課長】 死亡個体というのは。

【阿部主事】 一番怖いのは死亡個体で、ダニなのか寄生虫なのか見分けないといけないので送ってもらっていた。

【藤田参事】 一番最初のゆうバックでは、イノリー企画がクロマルハナバチを送っているのだが。

【阿部主事】 クロマルハナバチの女王蜂だけを送っていた。これを送って向こうで繁殖させる。無償供与です。

【藤田参事】 契約書の中で販売価格4,500円。毎月最低購入数350匹とあるが、これは何なのか。

【阿部主事】 これはハチを育てるために、区に予算がついていればこのような契約は必要なかった。これだけ買ってもらわないと飼育費がまわらなかった。

【藤田参事】 毎月約150万円程度になると思うが、これは区がお金を出していないから、ハチを売って飼育費に回していたということなのか。

【阿部主事】 そうです。これも矢嶋課長は知っている。お金をもらわないでクロマルハナバチのエキスとかをホテル飼育に使っておいて、奪うものだけ奪って与えるものは何もなかった訳だから、それは飼育代とかは向こうからもらった方がいいよねということ。

【藤田参事】 それは区に入れていたのか。

【阿部主事】 原材料費なので。

【藤田参事】 普通、役所で何かを売れば、それを使ったとしても一回役所に入れてから支出をしますよね。

【阿部主事】 それは言ったが、Noと言われた。

【藤田参事】 それは誰に言われたのか。

【阿部主事】 エコポリからも言われたし、佐藤課長にも言われた。そんな面倒臭いことは区ではできないので、勝手にやってよと言われた。この間も私は言ったのだが、区として一銭もかかっていないのに、なぜ区としてこれを認めて販売して農家に提供しないのか、全国の農家が喜ぶのに。

【木曾課長】 女王蜂を飼育するのに150万程度かかってしまうのか。

【阿部主事】 350匹の女王蜂を育てるためには、約3,000匹必要になる。それを維持管理するためには、それなりの道具や器材が必要になる。

【木曾課長】 区で認めていたのは、効果的にホテルを羽化させるための範囲という認識だが、この3,000匹という数はどこで飼っていたのか。

【阿部主事】 ホテルで飼っていた。そんなに多くない。この部屋の半分もないくらいの範囲でコロニーを全部置く。その入る容器などは全部提供だった。そこで賄わなければいけない。

【藤田参事】 そもそもハチがホテルにいいからということで、ハチをやっていたわけですよね。

【阿部主事】 はい。

【藤田参事】 それであれば、生態館だけでやっていけば良かった訳だが、能登町から要望があった。

【阿部主事】 細々であれば何もこんなにやる必要はなかった。

【藤田参事】 その費用である約150万円というのは、向こうに送るための経費としてもらっていた。

【阿部主事】 そうです。

【藤田参事】 会計手続的には、どうかと思うが、当時の課長さんがそれでもいいと言ったということか。

【阿部主事】 自分はその話をしたがNoだった。板橋としては、ハチが増えました。ホテルで使う土と個

体だけあれば、後は好きにしてみた。

【藤田参事】 当時の課長さんがいいと言ったということで、会計手続きはやらなかったということだが、その150万円はどうしていたのか。

【阿部主事】 それは全く私は知らない。ボランティアの方々やイノリー企画でしっかりと税理士や経理士を入れて、こちらに非が被らないようにしてくださいよと言っていた。

【藤田参事】 区の施設でやって、それにかかった経費分を売っていた。そのお金はイノリー企画で管理していた。

【阿部主事】 売っていたという表現だと利益を被っていたとなるが、利益は被っていない。必要最小限度の飼育費用をもらっていた。

【藤田参事】 それを区の施設でやっていたのに、区には何もなかったのか。

【阿部主事】 マルハナバチを使ったエキスでホテルのろ材を作っていた。それで土や石が活性化されて、ホテルのろ槽4つに移すことで、ろ材代が約800万円ういた。

【藤田参事】 それはイノリー企画がやってくれたことで、区がもらったということか。

【阿部主事】 そうです。向こうとしては、その分を返せということになってしまう。

【藤田参事】 その辺の会計処理は全くされていなかった。

【阿部主事】 それについては、私はノータッチです。

【藤田参事】 お互いの気持ちでやっていたようなことか。

【阿部主事】 気持ちというか。向こうとしても350匹いらぬという時もあった記憶がある。

【藤田参事】 これだけ見ると最低でも350匹と読めてしまうが。

【阿部主事】 いってないような気がする。

【藤田参事】 阿部さんは知らないとしても、イノリー企画には少なくともお金が入っていたことは間違いない。ただ、区のところの使用については、どうなのと思うのだが。

【阿部主事】 能登町から怒りの電話をもらった。板橋区は認めておいて何なんだという電話をもらった。

【藤田参事】 どういうことか。

【阿部主事】 板橋から調査が来たが、どうこう言うのはおかしいだろう。町長、区長で決めて、やっていいと言われていて、課長からもいいと言われていて、蓋を開けたら知らない人間が来て、阿部を犯罪者扱いのようにするのは、能登町として納得がいけないと。それについては、まあいいじゃないのと言ったが。

【木曾課長】 それはいつ頃電話があったのか。

【阿部主事】 2月5日頃ありました。何がいけないのか。板橋だってイノリーだって能登だって誰が得をしたのか。良く考えれば一番得したのは、ろ材代がういたのだから板橋区だろうと。

【藤田参事】 ろ材代については、お金に換算すれば800万円位だろう。

【阿部主事】 3年間で。

【藤田参事】 生態環境館のためになったことは分かったが、会計を通していないことが気になる。

【阿部主事】 通しましょうかと話したら、区の方は勝手にやってということだった。関知しないからいいですよ。

最後、矢嶋課長が作ってくれた今後の組織書には、マルハナバチの事業があつて、ホテルの事業、マルハナバチの事業、水質調査の事業をビジネス転換するといいいねということ、イノリー企画に渡している。大迫部長と2年前にこういうかたちでいきたくて話していた。蓋を開けてこうなって、ちょっと待てよとおかしいじゃないのということになる。

【藤田参事】 そうなると尚更、契約書の印鑑が区の公印でなく、阿部さんの私印でやっていることがひっかかる。そこまで部長も課長も言っていたのであれば、公印でやるべきことではないのか。

【阿部主事】 そこが自分の役所での知識のなさだった。ずっと外に出てきて、公なルールについては

最低限しか知らない。その中で阿部頼むねと言われれば、OKなんだと言うことになってしまった。

【木曾課長】 小山町の件だが、この経緯について教えてもらいたい。

【阿部主事】 小山町との経緯は、十何年位前になるが、平成12年頃に小山町の方々がホテルに来ている。いずれホテルの公園を造りたいという話があったが、しばらく何の連絡もなかった。

つい3年位前に町長が来て、ホテルは自分のマニフェストだから作ってくれと話があった。その時に小山町さんは前に来ているので、特許料が発生するかどうかは確認させて欲しいと話した。

平成14年度に特許を出願した。出願してから新規のところは、特許料をいただくが、14年度以前からお付き合いのあったところは、特許料はもらわない。

【木曾課長】 お付き合いとは、どのような付き合いか。

【阿部主事】 ホテルの交流とか勉強会だとか施設の見学に来たというところにはいただかないと決めた。

【木曾課長】 誰が決めたのか。

【阿部主事】 決めたのは山崎部長じゃないか。これは結構問題になった。

【藤田参事】 今の山崎部長がエコポリの所長でいた頃。

【阿部主事】 はい。今まで一銭もかからなかったのが、14年度からいきなりかかるのはおかしいということで、交流のあったところは度外視しようということで。

【木曾課長】 そのルールは何か残っているか。

【阿部主事】 資料はエコポリに残っていると思う。

【木曾課長】 特許を出願した時に考え方を整理しているのか。

【阿部主事】 何回も整理しました。いきなりその日を境に特許料が欲しいというのは怒るだろうとなった。小山町に関しては、平成14年度前からホテルの見学会などにも来ていたので、公園の中に水路を作るので、これは道具などを向こうで用意してもらって、自分が直接作業に携わることはできないが、アドバイスをしませよという程度。

【木曾課長】 特許は区の財産なので、財産を免除するためには許可を得ないといけないが。

【阿部主事】 それは町長や総務課長には、区に提出してくれと必ず言っている。向こうをお願いしている。ホテルの流れを作りたいが、平成14年度以前から付き合いがあるので、免除申請してくださいと。

【木曾課長】 結果的に申請はされているのか。

【阿部主事】 そこは分からない。公文書などは所管にいくので。

【木曾課長】 阿部さんは免除申請がきたかどうか分からないが、勝手に免除するとは言えないということか。

【阿部主事】 そうです。それはお伺いを立ててくださいということになる。

【木曾課長】 小山町とはルシオラが契約をしているが、ルシオラはどのような会社なのか。

【阿部主事】 ルシオラは茨城大学のベンチャー企業だった。石塚輝雄さんがホテルを今後やる際に様々な知的財産が増えるので、一企業に任せることができないから、茨城大学の学長先生をお願いをしてルシオラという会社を作ってくれということできた。ホテルに使う特殊な材料などを開発している。

【木曾課長】 ルシオラが小山町に業務代理人等通知書というを出している。その中で主任技術者として板橋ホテル生環境境館館長、阿部さんの名前が出ている。

(資料を阿部主事へ提示)

【阿部主事】 これは誰が書いたのか。

【木曾課長】 ルシオラで働いているように見えるが。

【阿部主事】 本当だ。これは私、初めて見た。これは小山町なんだ。これは私、最初に書いてあったらNoと言ってますね。

【藤田参事】 これはルシオラが小山町に通知しているもので、公務員が営利企業に従事しているようになっている。

【阿部主事】 これは言われたら仕方ないですね。ただ、向こうに行って指導したことは事実です。

【木曾課長】 指導とは、どのようなかたちで行かれたのか。単純に書類を見るとルシオラの主任技術者として指導に行っているような感じに見えてしまう。

【阿部主事】 全然逆です。基本的にルシオラは行かない。むしろ企画とかと行って、小山町の人たちと、こういう水路を作っていくとかいうかたちで作って行く。

【木曾課長】 それはどのような時間帯にやっているのか。

【阿部主事】 休館日。主に月曜日。相手の都合が、どうしてもダメな場合は休暇を取って行った。

【木曾課長】 例えばこの多目的グラウンドのホテル水路を作った時には、どれくらい行ったのか。

【阿部主事】 3回位行った。ホテルが出た後は自分は行かない。行くのも全部私費で行っている。

【木曾課長】 この時点で、板橋区に特許の免除申請が出ているかどうか分からないまま指導にあたっていた。

【阿部主事】 分からない。ただ、小山町にはお伝えはした。

【木曾課長】 特許はどのようなかたちで依頼があるものなのか。

【阿部主事】 だいたい、口コミ、ホームページやテレビなどを見て来ることが多い。

【木曾課長】 施設の方に連絡が来ることが多いと思うのだが、阿部さんとしては事務的なことは分からないとお伝えして、どのようなかたちで紹介していくのか。

【阿部主事】 特許料をもらうもろわない以前に、まず現場を見させていただく。現場を見て特許を使わないと無理だと判断した場合に、区へ特許申請をしてもらいたいと話していた。金額は流れなので、120万円だとか20万円だとかという話になってくるのだが、だいたい8割方はそれを聞くどちよつと高いなと言うことでやめてしまう。

【藤田参事】 3回程、小山町に行かれたが向こうへ行って、いくら位かかるとなった際にそのお金はどこに入るのか。

【阿部主事】 それは小山町がどこかの業者に頼んでいるから。

【藤田参事】 ルシオラに入る訳ではないのか。

【阿部主事】 ルシオラでもないと思う。色々な地方に行くが、役場には地元の業者さんを考えてくださいと言っている。こんなものが必要なので揃えてくださいと。

【藤田参事】 そうするとこんなものが必要でだいたいいくら位ではないでしょうかと、アドバイスをするといった感じなのか。

【阿部主事】 アドバイス程度です。向こうが材料を買って揃えましたとなったら、もう1回見に行って大丈夫ですねといった感じ。

【藤田参事】 それは無報酬で何ももらわないでやっているのか。

【阿部主事】 報酬などは何も貰わない。車代なども返している。

【藤田参事】 ルシオラの書類を見る限り、社員じゃないのと見えてしまう。そうなる公務員として、営利企業への従事はどうなのとなるか。

【阿部主事】 これは問われても仕方ないですね。この部分は、小山町が作ったんでしょこれは。

【藤田参事】 小山町が作ったのではなくて、ルシオラが小山町に提出している。

【阿部主事】 茨城大がこれを、ルシオラの間違いじゃないか。でも仕方ないです提出されてしまっている。

【木曾課長】 同じ年の5月10日にホテル飛翔に関する事項(最低5年間)という阿部さんが提出した文書に、「板橋区との特許が必要であるが、特例として契約しているのと同等もしくは同

等以上の環境を継承いたします」とあるが、この時点で小山町から特許の免除申請があがってきているかどうかは確認されたのか。

(資料を阿部主事へ提示)

【阿部主事】していないです。小山町長の議会で絶対こういった文言が必要だということで、小山町からこういった文言で書いてくれませんかという要請があったことは事実です。

【木曾課長】なぜ阿部さんが言わなければならないのか。契約したのはルシオラでしょう。

【阿部主事】ところが生態と考えた時には、やはり板橋の阿部の責任だと思うんです。

【木曾課長】ここでは特許の許可はされていない訳なので、そうすると最後まで免除申請は来ていなかったのか。

【阿部主事】きていないでしょう。

【木曾課長】誰が向こうに特許は必要ないと認識させたのだろうか。

【阿部主事】それは平成14年度以前に来たという大前提がある。

【木曾課長】それと最低5年間の保証というのは、阿部さんが5年間も保証できるのか。

【阿部主事】基本的に生命体は3年から5年という決まりなんです。例えば鯉などを買った時に、何百万とかかりましたと、その場合は10年間位保証とかありますけども、普通考えたら3年から5年かな。

【木曾課長】これは生態館の阿部さんということで、公人として誓った訳ですよ。個人として勝手に保証する分には問題ないけど、これを保証しろと言われた時に区にも影響するかもしれない。そういったことは考えなかったのか。

【阿部主事】考えました。自分の中で考えたが、当然自分は区の間人でありながら、区の名譽を汚さないためにベストを尽くそうと思った。

【木曾課長】最低5年間の保証を出したことは、上司には相談したか。

【阿部主事】この件については、川平係長へ説明した記憶がある。

【木曾課長】川平係長にいつ頃、説明したのか。

【阿部主事】この時期に。

【木曾課長】何を見せて説明したのか。

【阿部主事】こういう感じでいくしかないねと。

【木曾課長】この文書は阿部さんが作ったのか。

【阿部主事】小山町からこういったかたちで作ってくれないかどきた。

【木曾課長】小山町にはボランティアとしてやっているのに、なぜここまで保証しないといけないのか。

【阿部主事】これは阿部の異常なサービス精神です。それしかない。

【藤田参事】生態館の阿部さんであれば、向こうの議会が必要だということであれば、やはり公印でしょう。公印を使えるのは、課長以上ですよ。

【阿部主事】それは、私のミスです。どう見ても。

【木曾課長】5年間保証というのは、ルシオラもしているのか。

【阿部主事】ないです。関係ないです。ただ、私とした場合に定年までいられるという前提のもとで、それで次の世代の区の職員に技術を任せるという前提だった。

【木曾課長】小山町の整備をした結果、ボランティアとしてどうだったのか。

【阿部主事】連絡がきて、去年はすごい飛んだ。想像を超える位たくさん飛んだので良かった。伊勢神宮からも連絡があった。

【木曾課長】飛ばすまでの間も阿部さんは手伝ったのか。

【阿部主事】自分は腰が痛いで、休暇で行ってそこをブルドーザーでちよつと掘った程度です。

【木曾課長】長くなったので、5分程度休憩しますか。

【阿部主事】大丈夫です。

【木曾課長】イノリー企画が個人事業の開廃業届出書というのをを出している。届出区分の所在地、電話番号が生態環境館と同じである。これは便宜供与していたようなかたちで、場所を勝手に貸していたように見えてしまうが。

【阿部主事】以前その話を聞いた時にダメだと。自分の家にしてくださいと言った。横浜の。それはいつでしょうか。

(資料を阿部主事へ提示)

【木曾課長】これは平成23年。

【阿部主事】これは変えてますね。これから廃業して、すぐに横浜になったと思います。これはダメ。やるなら違うところでやってということです。

【木曾課長】なぜイノリー企画がこの住所にしたのか。

【阿部主事】これはイノリー企画の責任ではなくて、最初、私が軽い感じでいいんじゃないかと話してしまっただけで、阿部の不徳の致すところですよ。はっと気づいて、すぐ廃止して自分の住所にしてくださいと。青色申告なので、個人なので、税金などはしっかり管理してくださいとお伝えをしました。

【木曾課長】こういうかたちで、公の書類が出るのと誤解をうけますよね。

【阿部主事】誤解うけますね。100%。

【木曾課長】イノリー企画と関係が深い、親しいところでいくと阿部さんになってしまっただけで、阿部さん

【阿部主事】これだけご理解いただきたいのだが、区とした場合にホテルとして非常に恩恵を受けていた。この方々に、これを置いてですよ。来館者への説明など非常に一生懸命やっていたので、引け目がある部分がある。これに関しては今はないです。すぐに聞いてまずいと言った。

【木曾課長】こういったことがすでに知っていたのか。

【阿部主事】こういうふうには見せない。皆さん自分が役人だと知っているの。個人開業はここの住所ではまずいですよねというので、まずいよと言った。書く前に言っている感じ。

【木曾課長】駒野さんも同じような目標を持ってやっている仲間だから、親しいとか信頼関係を持ってやっている訳だから、分かっていると思うのだが、なぜこのようなことをしたのだから。

【阿部主事】儲けている訳ではないので、別に良いという感じだったと思いますよ。自分とした場合はNoでした。

【木曾課長】営利企業があたかもここでやっているような誤解を招いてしまう。

【阿部主事】それはまずいですね。

【木曾課長】施設の管理の話だが、施設の鍵の開け閉めを第三者にお願いしたことはあるか。

【阿部主事】第三者というかボランティアの樋口さんという方に、数回、私がどうしても朝早く来れない時などをお願いしたことがある。

【木曾課長】どういったかたちでお願いをしたのか。何ををお願いしたのか。

【阿部主事】ただ、鍵を開けておいてくださいと。鍵を開けて、一部分の水温だけチェックしてくれませんかかと。

【藤田参事】朝、鍵を開けてくださいとのことか。

【阿部主事】朝鍵を開けて、5時半に水温を見たい。何℃なのか。どうしても自分が朝病院などでどうしても来れない時に、樋口さんをお願いをしたことはあります。

【木曾課長】何回くらいか。

【阿部主事】そんなにはないと思います。

【木曾課長】数回。

【阿部主事】数回。

【藤田参事】樋口さんという方はどのような方なのか。

【阿部主事】 ホテルを飛ばす会の会長なんです。平成4年にホテル騒動があった時の中心メンバーだったので、そのメンバーともめたくないという部分があった。それと夜中12時半に水温を測っておいてくれませんか。

【藤田参事】 夜中の12時半ですか。

【阿部主事】 21時から1時半までがホテルの夜の活動期なんです。それを怠ってしまうと難しい。確認作業がある。

【藤田参事】 阿部さんの他に役所の職員はいないのか。

【阿部主事】 いました。再任用と再雇用が。

【藤田参事】 普通でいうと、いくら会長さんだといっても一般の方なので、職員にお願いするのが普通ではないか。

【阿部主事】 普通なんですけれども、小角さんは透析をしている病を持っている。また、朝早い、夜遅い女性には危険がある。ボランティアもまずいということで、飛ばす会の会長さんをお願いしたのは事実です。

【藤田参事】 例えばエコポリの職員とか、環境課の職員にお願いしたことはないのか。

【阿部主事】 ありますよ。電話で来てくれないですか。嫌だ。早すぎて遅すぎて嫌だ。

【木曾課長】 それは上司に相談したことはあるのか。

【阿部主事】 あります。そしたら仕方ないよ分からないようにってことでした。

【木曾課長】 それはどなたに。

【阿部主事】 田村さんもそうでしたし、あと東京都から3代、代わっているんですね。みんないいよいよで、そこでちよつとタイムという人がいなかった。

【木曾課長】 そうすると数回と言っていたが、樋口会長に水温チェックを依頼したのは、いつ頃かなのか。

【阿部主事】 8年前前から年数回依頼していた。

【木曾課長】 水温チェックは難しいことではないのか。

【阿部主事】 生態に影響ないことを確認するだけ。

【木曾課長】 樋口さん以外にそういったことをお願いしたことはあるか。

【阿部主事】 樋口さん以外には依頼をしたことはない。ただ、ハチをやっていた綾部さんという方が、朝方どうしても交尾させなければならないという作業の時は、鍵を渡してどうぞしてください。区も業務として土をもらう関係上、必要だとそれは結構何回もある。それは生態に影響するの。

【木曾課長】 それは何時頃か。

【阿部主事】 それは5時とかですか。

【木曾課長】 阿部さんは通常何時に出動をされているのか。

【阿部主事】 7時前後とか。夜はだいたい10時、11時。前に12月頃、誰かつけている人がいた。私 のことを。興信所かと思った。

【木曾課長】 こちらも報告を受けており、2回確認をさせてもらっているが、この時はいずれも午前1時頃出て行って、朝の5時頃に入室する方、これが樋口さんだったという報告を受けている。さきほど数回と言っていたが、たまたまその数回がこの2回だったのかどうか分からないが、どうなのか。

【阿部主事】 正解だと思います。そんなに多くない。

【木曾課長】 あとは1月27日の調査の時に、朝すでに樋口さんがみえていて、それも阿部さんの指示でと樋口さんはおっしゃったということだが。

【阿部主事】 それもまさしくそのことです。

【木曾課長】 本課としては、同館施設の施設については、板橋区職員以外の第三者に任せることは認めていないと聞いているので、今の話と若干食い違いがあるが。

【阿部主事】 非常に大切だったのが、ハチの交尾とかをさせるのに、そういう鍵とかをした場合にはできないことになってしまうので。

【木曾課長】 作業日誌や取締簿など区役所のルールがあるが、例えば退庁簿などは樋口さんに頼んだ時はどうしていたのか。

【阿部主事】 自分です。連絡をして何時に帰りましたかと聞いて、機械整備のため嘘は書けないので、名前はまさか樋口とは書けないので阿部としていた。

もうひとつだけ、当時の山崎所長の時は時間外があげられないので、自由でいいよと。火事だけ出さないでくださいと言われた。朝早くても、夜遅くてもいいが、それは自分なりに調整してくれと言われていたことを付け加えておきます。

【藤田参事】 2回調査した結果、樋口さんがいた。その時に阿部さんは車で帰ったと報告があった。

【阿部主事】 それはボランティアの方の車です。私は車がないので。私は残念ながら悲しいが3年前に自己破産して全て没収されたので。それは研究費とかそういうものがかさんで、自己破産させていただいた。その時に車通勤だったが、その車も何も全部。

【藤田参事】 今はボランティアの方の車に乗せてきてもらっているのか。

【阿部主事】 今は電車です。ボランティアさん車ないので。

【藤田参事】 届出だと自転車だと聞いているが。

【阿部主事】 自転車です。一昨年からヘルニアで動けなかった。今も杖をついてきている。

【木曾課長】 今のお住まいはどちらでしたか。

【阿部主事】 蓮根です。役所って警察みたいなことをするのか。人を尾行したりとか。

【木曾課長】 こういったかたちで報告があがっているということ。

【阿部主事】 それは予算か何かで興信所に頼むのか。

【藤田参事】 そんな予算はないんじゃない。分からない。

【阿部主事】 すごく悲しくなりました。

【木曾課長】 普段は電車です。

【阿部主事】 電車か自転車。

【木曾課長】 何分位かかりますか。

【阿部主事】 うちの蓮根からだ自宅から15分か20分位。

【木曾課長】 車については、乗ったとしても誰かの車に乗っている。

【阿部主事】 私の車ではないです。これについても、桑子所長の時にボランティアが車で来る分には、一向に構わない。職員はダメよと。お手伝いの方が車で来た場合は車庫に入れることを認める。ただし、他の方たちには、コインパーキングに入れるなり、もしくはお体の不自由な方は入れてもいいけどねということなんですけれども。

【木曾課長】 話を聞いたが、ご自分としてこの辺のことに、どういった感想をお持ちか。報告があがってきて疑義がある部分があるので、事故監察を行っていることについて。

【阿部主事】 悲しいです。ただ、自分としては、こういうかたちで疑義があるのであれば、直接私にこういうかたちで聞いてもらえた方がありがたいです。これが自分のためになったし、また、自分がいかに甘かった。ハンコ一つにしても、何にしても甘かった。だから自己破産するんですけどね。だまされて。

【木曾課長】 差し支えない範囲で聞か、3年前に自己破産されたのは研究費だと言っていたが。

【阿部主事】 本と資材ですね。

【木曾課長】 資材とは。

【阿部主事】 色々な薬品とかがある。硝酸カリウムだとかエタノールだとか。

【木曾課長】 そうなのは、どこで研究するのか。

【阿部主事】 自宅であり、ホテルに関係することはホテルでやっていた。

【木曾課長】 それは自腹でやるものなのか。

【阿部主事】 自腹です。

【木曾課長】 自腹の部分を施設でもやっていた。

【阿部主事】 やっていました。特にマルハナバチのエキスがどこまで活用できるかというのは、エキスを注入しなければいけない時とかは、ガスクロという非常に高密度の検査機が必要になる。選心分離機とか顕微鏡とか、最初カードで買っていて結果的に払えなくなっていく訳です。時間外もらってないし、決まった給料でやっているの、それで自己破産ということ。

2010年の12月25日に自己破産の申請をし、2011年の8月23日に裁判所で決定した。悲しかったです。

【木曾課長】 当時のそういう器材だとか薬剤というのは、自宅にもホテルにも置いてあった。

【阿部主事】 自宅にもホテルにも置いてあった。

【木曾課長】 成果としてハチの研究をされていた。

【阿部主事】 ハチの研究と放射能の研究。放射能の研究が一番かかる。鉛の遮蔽など、役所の中で初めて自己破産の話をさせていただいた。そういうかたちで、来てる方々にこれ頂戴という訳いかなないので、自分で買うしかない。顕微鏡一つにしても、オリンパスの顕微鏡などは800万くらいする。それをローンで組んで行っても払えなくなってくる。物も取られてしまうし、車も家も取られてしまう。家はたまたま息子が競売で売って、自分が買い戻すんですけど、今のマンションは。悲しい思いをさせてしまったなと。

あの時に私驚いたのが、役所の全てのかけている生命保険も解約して、阿部宣男破産管財人の口座を作られてしまうんです。そこに全部入れないといけない。退職金の8分の1も入れなければいけない。そういうかたちで3年前やって、ようやく落ち着いて後2年で自分も定年できれいに身を引いてという矢先にこうだったので、もう自分はやめたいというのが事実です。

【木曾課長】 その時の負債はどれくらいだったのか。

【阿部主事】 家が一番大きかった。マンションが3,150万。車のローンはそれほどではなかったが、器材が1,300万くらいだった。あわせて5,000万円弱ですね。

【木曾課長】 器材は1,300万円もするの。

【阿部主事】 そうですね。あと本とか。私、給料の3分の1が本なので、原子物理学とか生態とかのやつが。へんな誤解を招いてしまうかもしれませんね。

【木曾課長】 色々な情報が私共の方にも入って来るのだが、その中でホテルの公開時に施設で賄いきれなくて他の所から持ってきたのではないかという話もあるが。

【阿部主事】 それは毎年のように言う方がいる。ねたみひがみで、それは絶対できない。どこから持ってくるのという部分がある。それは私、絶対的にやったらいけないと言っている。いなかったら、いないでいい訳ですよ。出ているやつだけを見てもらえばいい訳なので、それがすごく大切だと思うている。

【木曾課長】 発表しているのは、3,000匹でしたか。

【阿部主事】 はい。でも基本的に5月から9月までのトータルですから。ヘイケボタルに関しては、かなり長い間出るのがちょっとと数字のオーバーとかはあるかと思えます。計算間違いなど。

【木曾課長】 もう1点が、むし企画に毎月区が委託料を支払っているが、この委託料の一部を受け取っていたのではないかという話があるが、これについてはいかがか。

【阿部主事】 それはない。あつたら終わりですよ。委託料を取っているようでは、話にならない。

【木曾課長】 なぜ、そんな噂が出てしまうのか。

【阿部主事】 私が正直なところ申し上げると、むし企画の元社長は去年お亡くなりになったのだが、そこに事務関係をしていたウエハラという人間がいた。ウエハラヒトミという人間がいて、その方は、4年前ですから2010年の8月30日にやめて、四葉にお住まいのナカムラカズオ

さんという東方産業の社長さんのところに雇われるんですよ。そこであることないことなんでもいいから言ってしまうと言うのは聞いた。

その方が事務担当でお金を管理していた。自分は預かり知れぬところだが、そういう点で今一番のあの辺の噂話としたら、二人がそう言っているよね。それを役所が真に受けるのかね。その方は議員の菊田順一さんのスポンサーですから、いいようにやれと。ホテルを潰せと。あそこを潰して介護老人ホームを作ると。

普通に潰すとホテルのことだから、また大騒ぎするから阿部を犯罪者にしてしまえば一番いいんだと。犯罪者にして懲戒免職にしてしまえば、世間一般誰もが納得いくよねという話ができていると聞いた時に、私は辞表を出させていただいたのが、2月3日だったので、私は速やかに辞めたいと思っている。

本調査は事情聴取の要旨である。

以上、その内容に相違ありません。

平成26年2月28日

資源環境部環境課管理係

阿部宣男

総務部参事

藤田 雅史

総務部人事課長

木曾 博

総務部人事課人事係長(書記) 宮川 修一

総務部人事課人事係主査(書記) 豊田 岳彦